

1 主題構成表

主題名 「働くことの喜び」 (小学校・中学年)

資料名 「美しい山河を未来にーデレーケ」

<p>■ 内容項目 4-(2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。</p>	<p>■ 内容項目から見た児童の実態 (意識) ・係の仕事や与えられた仕事など、受けもった仕事は責任をもって取り組まなければならないと考えている。 ・当番活動や係活動において、興味・関心のある活動には、意欲的に活動するが、そうでない仕事には、人任せになったり、最後まで取り組もうとしなかったりする。 (要因) ・係や仕事には責任があり、果たさなければならないことは理解しているが、そのことが自分や周りの喜びにつながることにまで気付くことができていない。 ・自己中心的な考えがあるため、興味の無いことに関して責任をもって取り組むことができない場合がある。 ・自分の仕事が仲間や周りの人の役に立っているということに気付くことができず、働くことへの満足感を味わった経験が少ない。</p>	<p>■ 資料の分析 ・水理工師であるオランダ人デレーケは、自国のため、自分を認めてくれた技師長のため、自分の力を発揮するために来日する。木曾三川の改修を任されていたとき、5年連続で起きた洪水の事実から、設計図を書き直す必要があった。やがて工事が遅れ、彼自身批判を受けることになるが、水理工師として、地域住民が安心して生活できることだけを考え、工事の続行を決意した。自分の役割を果たし、取り組むことが自分や周りの人の喜びにつながり、進んでみんなのために働くことの素晴らしさに気付くことができる資料である。 ・妻の死によって、仕事への情熱を失いかけたデレーケの思いに共感させる。 ・木曾三川流域では、水害との闘いの歴史から、自分の水理工師としての役割を果たすことが、地域住民の安全な生活を実現し、彼らの喜びにつながることに気付かせることができる資料である。</p>
<p>■ ねらい 自分の仕事や活動を行い、役割を果たすことが自分や周りの人の喜びにつながることに気づき、みんなのためになることを考え、進んで働こうとする心情を育てる。</p>		
<p>■ 展開の構想 ・デレーケの心に情熱の火を灯した理由を知ること、上司の信頼に応え、自己の力を発揮することに価値を見出しているデレーケの心に気付かせる。 ・住民からの温かい言葉が、仕事の再開へとつながったことから、働くことの意義が、自己の力を発揮することだけではないことに気付かせる。 ・水理工師として住民のことだけを考え仕事している姿から、役割を果たすことが周りの人の喜びや安心につながることに気付かせる。</p>	<p>■ 基本発問 (◎中心発問) ○デレーケは、ドールン技師長から、来日の依頼をされたとき、どんな気持ちだったでしょう。 ○妻を亡くしたとき、デレーケはどんな気持ちだったのでしょうか。 ◎デレーケが設計図を書き直す決断をしたのは、どのような気持ちからでしょうか ○これまでの係や、当番活動の中で、自分が取り組んだことで、周りの人や友達の役に立ったと感じたことはありませんか。</p>	
<p>■ 「わたしたちの道徳」の活用 (授業前 ・ 授業中 ・ 授業後 ・ 活用しない) (活用の仕方) 係活動を振り返る際に、「学校や学級でみんなのためにできること」(P.132)を記入し、よりよい取組方法を自分で決めて実践する。</p>		

